

2. 「独立就農は目標ではなく手段」

山崎 和弘 (平成 19 年度 農学科卒)

就農年	平成25年
就農地	千葉県野田市
主な作物	ホウレンソウ、バクチャーなど

【子供の頃から農業が好き】

山崎君は、千葉県野田市の兼業農家の生まれです。子供の頃から畑で野菜を作ったりして遊ぶのが好きで、三人兄弟の中では一番農業に興味関心が強かったそうです。幼稚園の頃から将来は農業で身を立てたいと思い、地元の園芸学科のある高校に進学しました。実家の両親はサラリーマンで、おばあさんが地域での代表的作物であるエダマメを作っていました。周囲の農家は東京通勤圏と言うこともあり、山崎君の家も含め小規模な経営が多く、本格的に農業に力を入れている人は数えるほどで、あまり地域の農業の未来に夢や希望を見いだせませんでした。大規模な野菜の経営を勉強したい、実際に見てみたいと思い、ハクサイやレタスなど露地野菜の大産地が広がる茨城県の農業大学校に進学しました。



新しいハウスではホウレンソウを作付けしています。

【農業法人で5年間技術向上に励む】

農業大学校で野菜栽培の基礎を学んだ後、さらに茨城県内の農業法人で野菜栽培の技術、特に葉菜類の栽培ノウハウやマネジメントを学びました。さらに技術を高めるため、最初に入社した法人のはからいで、3カ所の農業法人で経験を重ねました。それぞれの農業法人に特色があり、小規模で多品目を作る経営や大規模に単品目を作る経営、農法についても慣行栽培、減農薬栽培、有機栽培と、法人毎の方針や取引先のオーダーにより、様々な栽培技術を身につけることができました。徐々に農場部門の責任者を任されるようになり、法人に蓄積されている技術情報に加え、失敗を重ねる度に工夫を重ね、栽培技術を自分のモノにしていきました。

【独立就農を果たし経営規模の拡大へ】

農業法人で5年経験を重ねた後、法人の施設を借りる形で独立就農し、さらに2年前、実家のある千葉県野田市に農地を借り、経営を移し、現在に至っています。ホウレンソウやバクチャー、ハーブなどを、露地栽培とハウス栽培で併せて2.5畝経営しています。勤め先の農業法人でハーブ部門の主任を担当していた奥さんと出会い結婚、子供にも恵まれました。奥さんも今は育児が中心の毎日を

送っていますが、手が離れたらノウハウを活かし、ハーブ栽培を拡充していくとのことです。売り上げは初年度700万円でスタートしましたが、徐々に増え、今年度は1800万円を予定しているそうです。現在は、実家敷地内の納屋を改造し冷蔵庫を備えた施設で出荷調整を行っていますが、手狭になってきたことから、近くに用地が確保できたので、空調などを整備した新たな作業場を今年中に建築し、さらに次のステップに上がる予定です。今後人を雇用することで、さらなる規模拡大を図ることを目指しています。

【農業法人で研修したメリットを活かす】

農業法人で就職・研修したメリットは、先にも述べたように多様な栽培技術を学べたことと、施設を貸してくれた法人が取引先となったことです。

また、農業法人に入った当初には、農業機械の知識が乏しく色々苦勞もしましたが、それも、多くのことを学んだ貴重な体験だったと思っているそうです。さらに、3つの法人の社長から、それぞれの経営に対する考え方などを、身近に学べたことも大きな収穫でした。特に、東日本大震災やその後の風評被害、つくば市をおそった竜巻や突風など多くの災害に見舞われ、その影響の対処法をつぶさに体験し学べたことは、自分が経営者になった現在、大きな力となっています。法人で働いていた5年間、山崎君はいつか必ず独立自営するという確固たる将来のプランが在ったため、気持ちがぶれることなく、少しずつ独立資金を蓄えることができました。

【独立就農は目標ではなく手段】

山崎君は「農業をやる、就農する」というのは決して目標やゴールではなく、夢を実現するための手段であると考えています。農業を通して同じ志を持つ仲間と夢を共有し、力を合わせてゆけば、今後農業の持つ可能性をもっと広げられると思っています。そのために、様々な事に挑戦していきたいとのことでした。



ここ数年、需要が伸びつつある香味野菜の「パクチャー」を調整中。